

2022 年度

学生生活アンケート報告書

福山大学 学生委員会

目 次

はじめに	1
1. 学生生活アンケート調査の目的.....	1
2. 学生生活アンケート調査の項目.....	1
3. 学生生活アンケート調査の実施方法	1
4. アンケート集計方法	2
5. アンケート集計結果	2
A. 回答者の情報	2
B. 回答者の考え方と思い	4
C. 回答者の行動と活動	5
D. 回答者の経済状況.....	7
E. 回答者の時間の使い方	10
F. 回答者の健康と安全	13
G. 回答者の人間関係.....	16
H. 新型コロナ感染症の影響.....	18
I. 大学への要望	19
6. 集計結果について	21
おわりに	22

はじめに

福山大学学生委員会では学生・大学院生の皆さんが充実した学生生活を過ごせるように、平成 26 年度から学生生活全般に関する学生の意見・要望を把握することを目的として「アンケート調査」を 2 年ごとに実施している。合わせて、キャンパス施設・交通手段・衛生面等に関する要望や意見も募っている。令和 2 年度には、新型コロナウイルス感染症に関連した精神的および健康面の不安感、経済状況における影響、人間関係における影響に関する質問を設けた。今回は、前回のアンケートの形式に従いつつ、時代の変化に対応できるよう、さらに回答者により質問内容がわかりやすくなるように質問項目を一部で修正した。また、前回の調査時は新型コロナウイルス感染拡大の第 3 波に突入していた時期であった。一方、今回の調査時は第 8 波の流行を迎えている時期であり、本学での感染者・陽性者も前回調査時より増加した時期であった。以上の国内および学内での情勢の変化を踏まえて、新型コロナウイルスに関する大学のサポートについて意見を問う質問を新たに設けた。これらについては、学生委員会研究部門小委員会のメンバーが質問項目の案を作成し、学生委員会の審議・承認を受けたのちに、評議会からの助言を受けた形で「2022 年度学生生活アンケート」として行った。アンケート実施に際しては、本学の ICT サービス部門に依頼して、Cerezo にコースを追加していただいた。

1. 学生生活アンケート調査の目的

学生にとっては大学において学修や研究活動に取り組むことが本来の使命であるが、大学生は一市民でもあり、日常生活を送っている。そして、大学内で学修・研究を行うために通学し、食事をし、休憩したり、サークル活動に参加したりといった、いわゆる学生生活を過ごしている。これら学生生活全般に対する支援が学生委員会の役割である。そこで、学生生活がより充実したものになるように、学生生活に関するアンケートを実施して必要な情報や現状を正確に把握し、その結

果を今後の学生支援に役立てることが本アンケートの目的である。

2. 学生生活アンケート調査の項目

学生生活アンケート調査の調査項目は、定点観測を行うため原則として前回実施した項目を引き継いだ。以下のように変更した部分もある。

1. 前はキャンパス内での喫煙に関する質問が 1 項目含まれていたが、「改正健康増進法」により学校や病院は敷地内禁煙であることや、本学としても喫煙場所の整理を行う方針であること等を踏まえ、喫煙習慣を問う質問は削除した。
2. 新型コロナウイルス感染症について大学のサポートに関する意見を問う項目を設けた。

以上の方針にしたがって、分類としては、A. 回答者の情報(質問 1～質問 4)、B. 回答者の考え方と思い(質問 5～質問 7)、C. 回答者の行動と活動(質問 8～質問 13)、D. 回答者の経済的状況(質問 14～質問 19)、E. 回答者の時間の使い方(質問 20～質問 26)、F. 回答者の健康と安全(質問 27～質問 32)、G. 回答者の人間関係(質問 33～質問 34)、H. 新型コロナウイルス感染症について(質問 35～質問 40)、及び I. 大学をよくするための回答者からの提案(質問 41～質問 44)という 9 分類で合計 44 項目の質問を設定した。

3. 学生生活アンケート調査の実施方法

調査は令和 4 年 10 月 28 日～令和 5 年 1 月 31 日の間に実施し、対象者は、令和 4(2022)年度後期に本学に在籍する学部生 3601 名、大学院生 42 名と科目等履修生、交換留学生、研究生合わせて 11 名の合計 3654 名であった。回答は本学が学修支援ソフトウェアとして導入している Cerezo のアンケート機能を利用して実施した。アンケートのコースニュースでアナウンスするとともに「リマインダー」機能により対象者全員に回答を依頼し、受付期間中、数回の「リマインダー」を送り、未回答者へ回答を促した。当初の回答期限は 1 月 18 日であったが、回答率ができるだけ高くなることを期待して 1 月末まで延長した。その結果、

回答者総数は 1567 であった。ここで注意しておくべきことは、回答期間中の Cerezo のコースメンバーは 3674 名であり、上記の大学公式在籍者数 3654 名と異なっている点である。これは、回答期間前に退学や除籍となった学生について、Cerezo からの削除されていないためである。これらの学生が期間中に回答している場合もあるので、回答率の値としては $1567/3674=42.7\%$ を採用することにする。前回の回答率 32.8% から 10 ポイントほど向上したことになる。

4. アンケート集計方法

学生生活アンケート調査の回答結果は、学生委員会研究部門小委員会メンバー 6 名で分担して集計した。Cerezo の回答データから学籍番号や氏名などの個人データを削除したものを、表計算ソフトで質問ごとに集計した。複数の選択肢を選ぶことができる質問では、個々の選択肢の合計数だけでなく、選択のパターンも集計した。これは前回とおなじである。

学年や学部との相関関係を考察するためのクロス集計は全体としては、前回までと同様に、今回も行っていないが、学年(年齢)が関係する「飲酒の習慣」については行った。

自由記述欄も前回と同様に、要望(質問 42)と提案(質問 44)のほかに、新型コロナウイルス感染症に関する質問それぞれに設定した。要望と提案については前回までは「スクールバス」や「教室・設備」などのキーワードで分類していたが、ひとつの回答に複数の意見等が記載されている場合が多いことを考慮して、今回は主要要望内容ごと(スクールバス、教室・設備、食堂・喫茶、売店・コンビニ、図書館、休憩場所・時間、学生寮、その他)に分類はするが、回答文を分解せずに整列し、本報告書末尾に付録として添付した。それにより同様の要望や提案がどの程度あるのかが把握しやすくなったと思われる。

なお、個人、団体や部署に対し中傷または非難するような内容と判断できる場合は、できるだけ、特定されないように修正した。また、回答文に明

らかな誤字・脱字等がある場合は、それを修正した。

5. アンケート集計結果

A. 回答者の情報

上で述べたように、クロス集計は一部のみ行ったが、学生生活アンケート調査における基本的な項目として、調査項目 A では、回答者の情報である学部、学年、通学手段、及び住居の形態に関する情報を収集した。

質問 1 あなたの所属する学部を教えてください。

回答者が所属する学部の割合を表 1 に示す。なお、前頁「3. 学生生活アンケート調査の実施方法」で記した背景により、大学公式在籍者数と回答期間中の Cerezo のコースメンバー総数とが異なるため、本報告書では合計を前者の「合計 3654 名」と後者の「合計(退学者等含む) 3674 名」で示した。この表記方法は次頁の質問 2 においても同様である。

表 1 回答者の所属学部

学部(研究生等含む)	回答数	割合
経済	343	21.9%
人間文化	226	14.4%
工	317	20.2%
生命工	369	23.5%
薬	293	18.7%
大学院	19	1.2%
合計	1567	100%

表 A 学部別回答率

学部	回答数	在籍者数	割合
経済	341	985	34.6%
人間文化	226	585	38.6%
工	317	677	46.8%
生命工	368	690	53.3%
薬	293	664	44.1%
大学院・研究生等	22	53	41.5%
合計	1567	3654	42.9%
合計(退学者等含む)	1567	3674	42.7%

生命工学部が約 23.5% で最も高く、次いで経済

学部、工学部が続く。また、各学部の在籍学生数を基にした回答率を表 A に示した。学部別の回答率は生命工学部が 53.3%で最も高く、工学部、薬学部、人間文化学部、経済学部の順であった。

質問 2 あなたの学年を教えてください。

回答者の学年分布を表 2-1 に示す。1 年次生が 24.9%で最も多く、次いで 3 年次生、4 年次生と続く。次いで、各学年の在籍学生数を基にした学年別回答率を表 2-2 に示す。学年別の回答率も 1 年次生が最も高く半数近くが回答している。続いて 6 年次生が 43.2%で、2、3、4 年次生および大学院生が 40%強であった。

表 2-1 回答者の所属学年

学年（研究生等含む）	回答数	割合
1 年次生	390	24.9%
2 年次生	333	21.3%
3 年次生	369	23.5%
4 年次生	358	22.8%
5 年次生	46	2.9%
6 年次生	54	3.4%
大学院生	17	1.1%
合計	1567	100.0%

表 2-2 学年別回答率

学年（研究生等含む）	回答数	在籍者数	割合
1 年次生	390	797	48.9%
2 年次生	333	820	40.6%
3 年次生	369	872	42.3%
4 年次生	358	858	41.7%
5 年次生	46	129	35.7%
6 年次生	54	125	43.2%
大学院生	17	42	40.5%
うち研究生など		11	
合計	1567	3654	42.9%
合計（退学者等含む）	1567	3674	42.7%

質問 3 あなたの通学の交通手段を教えてください。ただし、〔徒歩〕は、徒歩のみで大学まで通学

する人が該当します。最寄りの駅やバス停まで徒歩で行く人等は該当しません。

表 3-1 通学の交通手段

	回答数	割合
徒歩	177	11.3%
自転車	300	19.1%
原付・バイク	131	8.4%
自動車	456	29.1%
公共バス	101	6.4%
スクールバス	907	57.9%
電車	489	31.2%
無回答	12	0.8%
合計	1567	100%

表 3-2 通学の交通手段(詳細)

	回答数	割合
スクールバス	340	21.7%
自動車	330	21.1%
自転車+電車+スクールバス	136	8.7%
電車+スクールバス	146	9.3%
原付・バイク	71	4.5%
自転車+スクールバス	55	3.5%
徒歩	81	5.2%
自動車+電車+スクールバス	44	2.8%
自転車	35	2.2%
公共バス+スクールバス+電車	32	2.0%
徒歩+スクールバス	36	2.3%
電車	30	1.9%
自動車+原付・バイク	18	1.1%
公共バス	16	1.0%
無回答	12	0.8%
その他	185	11.8%
合計	1567	100%

通学手段について尋ねた結果を表 3-1 に示す（複数回答可、表 3-1: 複数回答の累計、表 3-2: パターン別）。この質問では、7 つの選択肢から複数の手段を選んでよいので、割合を計算する際の分母は回答総数の 1567 である。

表 3-1 から、スクールバスを利用する学生は約 58%で、毎回（2020 年度）アンケートの 63%から減少している。さらに、表 3-2 から自動車のみ

を利用している学生が前回調査（16.9%）よりも5ポイント近く増加した。なお、表3-1に示すように「徒歩」についても、前回調査（4.4%）から6ポイント程増加したが、これについては、他の交通手段を用いない場合のみ回答するように求めているのに対して、「徒歩」を選択した者のうち約半数が他の交通手段も選んで回答したことが影響している。表3-2に示すように「徒歩」のみは前回調査とほぼ同じであった。

質問4 あなたの住居について教えてください。

自宅あるいは下宿という住居の形態により、課外活動、アルバイトあるいは学習時間等への影響を知るために、本調査項目を設けている。学生の住居の形態について尋ねた結果を表4に示す。前回の調査とほぼ同じ結果で「自宅」が6割近くを占めた。本学学生の出身地は、広島・岡山県内が多く、「自宅」から通学する学生の割合が高いことを反映していると考えられる。

表4 住居の形態

	回答数	割合
自宅（親類宅を含む）	899	57.4%
下宿（賃貸アパート等）	580	37.0%
本学の学生寮	74	4.7%
その他	1	0.1%
無回答	13	0.8%
合計	1567	100%

B. 回答者の考え方と思い

この調査項目では、学生が大学生活に期待していることを把握するために、本学学生の価値観や思いを調査した。

質問5 大学生活において一番大切にしているものは何ですか。

表5に、大学生活において一番大切にしているものについて尋ねた結果を示す。「大学での勉強・研究」を大学生活で最も重要視している学生は、前回の調査の55%から減少し、50%を下回った。一方で、「友人関係」、「趣味・娯楽」、「アルバイト」の項目の割合が若干高くなった。この傾向は、新

型コロナウイルス事態による生活習慣等の変化が影響している可能性があるが、今後、注視すべき点と思われる。

表5 一番大切にしているもの

	回答数	割合
大学での学修や研究	763	48.7%
クラブやサークル、学友会など	54	3.4%
友人関係	350	22.3%
趣味や娯楽	229	14.6%
アルバイト	51	3.3%
その他	24	1.5%
特になし	86	5.5%
無回答	10	0.6%
合計	1567	100%

質問6 大学生生活において、質問5で回答したものの次に大切にしているものは何ですか。

設問5に関連して、大学生活において二番大切にしているものについて尋ねた結果を表6に示す。前回の調査とほぼ同じ結果であり、表5で第2位だった「友人関係」、表6では第1位となった。設問5と設問6の項目を合わせて考えると、7割近くの学生にとって「大学の勉強や研究」が大学生活において大切と考えており、「友人関係」が56%、「趣味や娯楽」が34%と続く結果となり、前回の調査と大きな差は見られなかった。

表6 二番目に大切にしているもの

	回答数	割合
大学での学修や研究	307	19.6%
クラブやサークル、学友会など	115	7.3%
友人関係	534	34.1%
趣味や娯楽	306	19.5%
アルバイト	159	10.1%
特になし	128	8.2%
無回答	18	1.1%
合計	1567	100.0%

質問7 授業以外の学生生活は充実していますか。

「友人関係」、「趣味・娯楽」、「クラブやサークル、学友会など」といった面の分野の充実度について尋ねた結果を表7に示す。「充実している」

「やや充実している」と回答した学生の合計は 8 割近くにのぼり、前回の調査 (68.7%) より 10 ポイント程度高く、授業以外の学生生活はほぼ充実していることがわかる。なお、授業などの学業活動の充実度については、大学教育センターの「学生による授業評価アンケート」で調査しており、今回の調査では行っていない。

表 7 学生生活は充実しているか

	回答数	割合
とても充実している	435	27.8%
やや充実している	799	51.0%
あまり充実していない	193	12.3%
全く充実していない	29	1.9%
考えたことはない	101	6.4%
無回答	10	0.6%
合計	1567	100%

C. 回答者の行動と活動

本学学生のうち約 8 割が「学生生活はとても、または、やや充実している」と回答した。その内容を知るために、大学行事やサークル活動への参加状況やアルバイト経験などについて調査した。

質問 8. 三蔵祭、学長杯争奪スポーツ大会、本学オープンキャンパスなどの大学行事に参加したことがありますか。大学や学部の行事なら何でも結構です。

表 8 大学行事への参加

	回答数	割合
主催者側（役員、模擬店等）、選手や発表者として積極的に参加したことがある	516	32.9%
見物や応援等で参加したことがある	495	31.6%
参加したことがない	544	34.7%
無回答	12	0.8%
合計	1567	100%

三蔵祭、学長杯争奪スポーツ大会、本学オープンキャンパスなどの大学行事に参加したことが

あるかについて尋ねた結果を表 8 に示す。三蔵祭や学長杯争奪スポーツ大会、あるいはオープンキャンパスなどの大学行事に「参加したことがない」学生の割合が最も高かったが、前回の調査 (44.0%) よりも 10 ポイント程度低い結果となった。一方で、「積極的に参加した」割合は約 5% 増加していた。また、「見物や応援等で参加したことがある」も約 5% 増加していたが、これについては積極的な態度で参加したのか、消極的な態度で参加したのか不明である。いずれにしても、大学行事への参加が前回調査よりも増加しているのだが、35% 近い学生が参加していない実態がある。後述の質問 43 において 17% の回答者から三蔵祭の改善の要望があることやそれについての質問 44 での具体的な提案を勘案しながら、学生が積極的に参加したくなるような、広報・周知の形式の工夫などの施策を考える必要がある。

質問 9. 学内外のクラブやサークル活動に参加していますか。

学内外のクラブやサークル活動に参加しているかについて尋ねた結果を 9 に示す。（複数回答可、表 9-1: 複数回答の累計、表 9-2: パターン別）。この質問では、5 つの選択肢から複数の手段を選んでよいので、割合を計算する際の分母は回答総数の 1567 である。

表 9-1 クラブやサークル活動への参加状況（累計）

	回答数	割合
1. 学内スポーツ系のクラブ	225	14.4%
2. 学内文化系のクラブ等	223	14.2%
3. 学外スポーツ系のクラブ	85	5.4%
4. 学外文化系のクラブ等	49	3.1%
5. クラブ等に参加していない	1040	66.4%
無回答	26	1.7%

表 9-1 から、学内のスポーツ系のクラブ等への参加が（学内 15.2%、学外 2.9%）前回の調査（15.2%）に比べ減少し、学外での参加が増加した（前回調査 2.9%）。これに対して、文化系クラブへの参加は前回の調査（学内 12.7%、学外 1.4%）に比べて若干増加した。

表 9-2 クラブやサークル活動への参加状況（パターン別）

パターン（数字は表 9-1 の数字に該当）	回答数	割合
1	181	11.6%
2	187	11.9%
3	49	3.1%
4	29	1.9%
5	1020	65.1%
1,2	14	0.9%
1,2,3,4	1	0.1%
1,2,5	1	0.1%
1,3	20	1.3%
1,5	8	0.5%
2,3	7	0.4%
2,3,4	1	0.1%
2,4	8	0.5%
2,4,5	2	0.1%
2,5	2	0.1%
3,4	4	0.3%
3,4,5	1	0.1%
3,5	2	0.1%
4,5	4	0.3%
無回答	26	1.7%
合計	1567	100%

また表 9-2 から、少数（4.8%）ではあるが、学内外で複数の活動を行なっている学生もあり、4つの分類すべてに参加していると答えた学生も 1 名いた。なお、複数回答の中には、「クラブ等に参加していない」と回答しながら他の項目に回答している場合も少数（20 件）あるので、それを割り引くと複数の活動をしているのは 3.5%程度となる。また、学内でスポーツ系のクラブに複数入っているなどの可能性については、今回の調査では分からない。

35%ほどの学生がクラブやサークルの活動に参加している一方、大学内外を問わず、「クラブ等には参加していない」学生の割合が、63.1%で最も高かった。これは自由になる時間がアルバイ

トによって確保できない、授業の拘束時間が長い、授業時間外の課題に使う時間が長いなど、要因は様々に考えられるが、こうした課外活動の不足が本学学生の主体的な態度の形成や自らの力で課題解決の方途を考える力の形成に抑圧的な影響を及ぼしている可能性がある。

質問 10. 大学入学後に“アルバイトをしている”、または“アルバイトをした”ことがありますか。

表 10 大学入学後のアルバイト経験

	回答数	割合
家庭教師、学習塾講師等	135	8.6%
販売等	383	24.4%
飲食店	509	32.5%
軽作業	76	4.9%
重労働	38	2.4%
1～5 以外のアルバイト	153	9.8%
したことはない	258	16.5%
無回答	15	1.0%
合計	1567	100%

アルバイトの経験について尋ねた結果を表 10 に示す。学生の 83.5%が何らかのアルバイトに従事している、または、従事していた。その中でも、「飲食店でアルバイトしている（した）」割合が 32.5%と最も高く、次いで「販売等のアルバイトをしている（した）」割合が 24.4%であった。

質問 11. あなたがアルバイトに従事する主な目的は何ですか。

アルバイトの目的について尋ねた結果を表 11 に示す。この質問では、9つの選択肢から複数の手段を選んでよいので、割合を計算する際の分母は回答総数の 1567 である。「趣味や娯楽の資金にするため」の割合が最も高く、前回の調査（48.7%）よりも 10 ポイント近く高い結果となった。また、「旅行の資金にため」が 5 ポイント近く高くなった（前回調査 18.9%）が、他の項目については大きな差は見られなかった。アルバイトに従事する理由として「趣味や娯楽の資金にため」と「欲しいものを購入するため」の割

合が高く、「旅行の資金にするため」を含めて個人の嗜好を満たすことを目的としていることが分かる。また、「社会経験として」の割合も高い。一方で、「学費の一部」や「生活費」のためのアルバイトを行なっている割合も低いわけではなく、生活が困窮する可能性を抱えている学生が一定数いる可能性を示している。

表 11 アルバイトに従事する主な目的（累計）

	回答数	割合
学費の一部を賄うため	288	18.4%
生活費を賄うため	555	35.4%
サークル活動のため	38	2.4%
趣味や娯楽の資金にするため	896	57.2%
旅行の資金にするため	367	23.4%
欲しい物を購入するため	656	41.9%
社会経験として	673	42.9%
その他	57	3.6%
アルバイトをしたことはない	236	15.1%
無回答	24	1.5%

質問 12. 福山大学キャンパスの中で一番よく滞在している場所はどこですか。

質問 13. 福山大学キャンパスの中で二番目によく滞在している場所はどこですか。

表 12 学内で一番よく滞在する場所

	回答数	割合
教室	760	48.5%
研究室・ゼミ室	319	20.4%
図書館	80	5.1%
1号館学生ホール	80	5.1%
サークルの練習場所等	60	3.8%
学生食堂	64	4.1%
喫茶室 (Fu's Café)	2	0.1%
学内のフリースペース	145	9.3%
その他	43	2.7%
無回答	14	0.9%
合計	1567	100%

質問 12 と質問 13 については、合わせて分析を行う。学内で一番よく滞在する場所について尋ね

た結果を表 12、二番目によく滞在する場所について尋ねた結果を表 13 に示す。

表 12 に示すように、福山大学キャンパスで最もよく滞在しているのは「教室」や「研究室・ゼミ室」で、併せると約 70% となっており、多くの学生が授業や実験などの時間が大学で過ごす時間の中で最も長いことが推察できる。

二番目によく滞在している場所（表 13）は「教室」と「学生食堂」の 20.7% である。ここで上がっている「教室」は授業時間と休憩時間のどちらか定かではない。

表 13 学内で二番目によく滞在する場所

	回答数	割合
教室	324	20.7%
研究室・ゼミ室	167	10.7%
図書館	165	10.5%
1号館学生ホール	124	7.9%
サークルの練習場所等	56	3.6%
学生食堂	324	20.7%
喫茶室 (Fu's Café)	6	0.4%
学内のフリースペース	250	16.0%
その他	130	8.3%
無回答	21	1.3%
合計	1567	100%

一番よく滞在する場所が「教室」や「研究室・ゼミ室」となるのは授業等を考えると必然的と思われるが、二番目によく滞在する場所の状況を鑑みるに、学生は、授業時間以外でキャンパス内の施設を積極的に利用していない様子が窺い知れる。コロナ禍での調査でもあり、感染を避けるために極力教室以外の施設を利用しなかったも考えられるが、交通のアクセスが悪いことやアルバイトとの兼ね合いなど、他にも要因は様々考えられる。今後、授業外での利用状況を調査する必要があるかもしれない。

D. 回答者の経済状況

前回と同様に、経済状況についても調査した。新型コロナウイルスの影響が考えられるため、分類

項目 H. 新型コロナウイルス感染症についての問 38 の回答と合わせて見ていただきたい。

質問 14 1 か月の収入の中で、一番多い収入は何ですか。

質問 15 1 か月の収入の中で、二番目に多い収入は何ですか。

質問 14 と質問 15 については、合わせて分析を行う。1 か月の収入で一番多い収入について尋ねた結果を表 14、二番目に多い収入について尋ねた結果を表 15 に示す。

表 14 1 か月の収入で一番多い収入

	回答数	割合
家庭からの給付	429	27.4%
奨学金	378	24.1%
アルバイト	707	45.1%
その他の収入	35	2.2%
無回答	18	1.1%
合計	1567	100.0%

表 15 1 か月の収入で二番目に多い収入

	回答数	割合
家庭からの給付	395	25.2%
奨学金	238	15.2%
アルバイト	332	21.2%
その他の収入	49	3.1%
質問 15 の回答のみ	528	33.7%
無回答	25	1.6%
合計	1567	100.0%

表 14 と表 15 から学生の収入は家庭からの給付が主であるが、それ以外の収入もかなりある現状が見て取れる。特に、6 割以上の学生の主だった収入がアルバイトである。奨学金については、2022 年度には学部生の 66%、大学院生の 14%が受給しているが、一番目または二番目の収入と回答したのは 4 割程度で、主だった収入ではない学生も一定数いると思われる。

質問 16 1 か月の収入はどれくらいですか。家庭からの給付を含めて回答してください。

1 ヶ月の収入額について尋ねた結果を表 16 に示す。

「5 万円～10 万円未満」が最も多かった。なお、2 万円未満という回答が 2 割弱あるが、表 4 によると、「自宅又は親類宅」を住居としている割合が 6 割弱であることから、経済的支援が必要かどうかを判断することは難しい。この質問に対して、クロスチェックを行っていないため、自宅通学とそれ以外では解釈が分かれると思われる。

表 16 1 か月の収入額

	回答数	割合
15 万円以上	50	3.2%
10 万円以上～15 万円未満	351	22.4%
5 万円～10 万円未満	649	41.4%
2 万円以上～5 万円未満	145	9.3%
2 万円未満	294	18.8%
回答したくない	57	3.6%
無回答	21	1.3%
合計	1267	100.0%

質問 17 1 か月の支出の中で、一番多い支出は何の費用ですか。

質問 18 1 か月の支出の中で、二番目に多い支出は何の費用ですか。

表 17 1 か月の支出で一番多い支出

	回答数	割合
住居費（アパート等の家賃）	321	20.5%
食事や衣類等の購入	570	36.4%
修学に必要な経費	72	4.6%
サークル等の活動	7	0.4%
公共料金	47	3.0%
通信費（携帯電話等）	39	2.5%
娯楽費（交際費を含む）	409	26.1%
その他の経費	82	5.2%
無回答	20	1.3%
合計	1567	100.0%

表 18 一か月の支出で二番目に多い支出

	回答数	割合
住居費（アパート等の家賃）	111	7.1%
食事や衣類等の購入	576	36.8%
修学に必要な経費	82	5.2%
サークル等の活動	13	0.8%
公共料金	148	9.4%
通信費（携帯電話等）	83	5.3%
娯楽費（交際費を含む）	373	23.8%
その他の経費	153	9.8%
無回答	28	1.8%
合計	1567	100.0%

質問 17 と質問 18 については、合わせて分析を行う。1 か月の支出で一番多い支出について尋ねた結果を表 17、二番目に多い支出について尋ねた結果を表 18 に示す。

「住居費」や「食事や衣類の購入」といった生活に必需なものへの支出が多いことがわかる。それ以外では、娯楽費がかなりの割合を占めている。一方で、「通信費（携帯電話等）」の割合はそれほど高くない。

質問 19 あなたが所有する、または専ら占有できるものがありますか。

「所有して占有できるもの」について尋ねた結果を表 19-1 に示す。この質問では、9 つの選択肢から複数の手段を選んでよいので、割合を計算する際の分母は回答総数の 1567 である。「携帯電話（含スマートフォン）」が最も多かった。しかしながら、生活インフラの一つとも言える状況の中で 84.6% という値は、実感よりは低いと思われる。また、「デスクトップパソコン」の 23.0% に対して「ノートパソコンまたはタブレット端末」が 74.9% であるのは、BYOD が浸透してきた証と考えられる。

「所有して占有できるもの」を 1 つのみ答えた場合と複数答えた場合を表 19-2 に示す。「複数種類持っている」学生が圧倒的に多いが、一種類のみ所有し占有している学生も一定数いることがわかる。

表 19-1 所有して占有できるもの

	回答数	割合
1. 自動車	420	26.8%
2. オートバイ(原付等を含む)	200	12.8%
3. 自転車	866	55.3%
4. 携帯電話（含スマートフォン）	1325	84.6%
5. ルームエアコン	576	36.8%
6. デスクトップパソコン	361	23.0%
7. ノートパソコン またはタブレット端末	1174	74.9%
8. テレビ	561	35.8%
9. 携帯音楽プレーヤー (iPod 等)	258	16.5%

表 19-2 所有して占有できるもの（単一）

	回答数	割合
1. 自動車	58	3.7%
2. オートバイ(原付等を含む)	16	1.0%
3. 自転車	36	2.3%
4. 携帯電話（含スマートフォン）	58	3.7%
5. ルームエアコン	2	0.1%
6. デスクトップパソコン	7	0.4%
7. ノートパソコン またはタブレット端末	8	0.5%
8. テレビ	2	0.1%
9. 携帯音楽プレーヤー (iPod 等)	3	0.2%
複数種類を持っている	1377	87.9%
無回答	27	1.7%
合計	1567	100.0%

「所有して占有できるもの」を複数答えた場合の所有物のパターンを表 19-3 に示す。「3. 自転車」は別として、「4. 携帯電話（含スマートフォン）」と「7. ノートパソコンまたはタブレット端末」の両方を占有している割合が多いことがわかる。また、この表にはないが「6. デスクトップパソコン」と「7. ノートパソコンまたはタブレット端末」を同時に所有している割合は 14.8%（回答数 232）であった。

表 19-3 所有物（パターン別複数）

パターン（数字は表 19-1 の数字に該当）	回答数	割合
3、4、7	145	9.3%
3、4、5、7、8	85	5.4%
4、7	68	4.3%
3、4、5、7	53	3.4%
3、4、7、8	48	3.1%
1、4、7	44	2.8%
3、4、7、9	36	2.3%
4、5、7	32	2.0%
4、5、7、8	31	2.0%

所有して占有できるもの」を複数答えた場合の所有物の数を表 19-4 に示す。3 種類ないし 4 種類が中央値と考えられる。7 種類以上所有という回答も 5%程度あった。

表 19-4 所有物（種類数）

種類数	回答数	割合
1	190	12.1%
2	174	11.1%
3	355	22.7%
4	328	20.9%
5	281	17.9%
6	132	8.4%
7	60	3.8%
8	11	0.7%
9	9	0.6%
無回答	27	1.7%
合計	1567	100.0%

E. 回答者の時間の使い方

ここでは、生活における活動の種類による時間の使い方がどうなっているのかを調査した。学生の本分である学修とそれに必要な通学や予習・復習、および、それ以外のサークル活動やアルバイトなどの割合を知ることは、学生指導の重要な情報であると考えられる。

質問 20 片道の通学時間はどれくらいかかりますか。

片道の通学時間について尋ねた結果を表 20 に示す。「30 分未満」と回答した者が 40.8%、「30 分以上～1 時間未満」と回答した者が 30.6%であり、回答者数全体の 70%程度が片道の通学時間が 1 時間以内で収まっていた。これらは前回調査結果とほぼ同等であった。一方、「2 時間以上」回答した者も 2.5%程度おり、こちらも前回の調査（2.1%）と同等であった。よって、学生における通学の所要時間はこの 2 年間で特に変化はなかった。しかしながら、3 割近い学生が、所要時間が 1 時間以上と回答しており、さらに最近のダイヤ改正で電車の本数が減少したことから、場合によっては早朝に自宅を出発し帰宅も夜遅い生活を送っている学生がいる可能性が考えられる。自宅学習時間の確保をはじめ、健康面に影響が出ていないか懸念される。

表 20 片道の通学時間

	回答数	割合
30 分未満	639	40.8%
30 分以上 1 時間未満	479	30.6%
1 時間以上 1 時間 30 分未満	270	17.2%
1 時間 30 分以上 2 時間未満	120	7.7%
2 時間以上	39	2.5%
無回答	20	1.3%
合計	1567	100.0%

質問 21 平日の帰宅時刻は何時くらいですか。曜日等により異なるかもしれませんが、いちばん多い時刻を教えてください。

平日の帰宅時刻について、一番多い時刻を尋ねた結果を表 21 に示す。70.1%が午後 7 時までに帰宅していると答えており、前回の調査（70.6%）と同様であった。一方で、午後 9 時以降に帰宅していると回答している者も 12.4%おり、前回の 10.8%からやや増加した。さらに前回の調査では回答のなかった「翌日の午前 1 時以降に帰宅している」と答えた者がいた。前回はコロナ禍が始まって一年足らずの頃であり、緊急事態宣言およびまん延防止等重点措置の発令や外出の自粛要請がたびたび起こっていたが、2022 年度はそのような発令や自粛要請がほとんどなかったこと

で、学生の外出機会が増え、一部の学生では帰宅時間が延びたことにつながったものと考えられる。

表 21 平日の帰宅時刻

	回答数	割合
概ね午後 5 時まで	514	32.8%
午後 5 時から午後 7 時の間	585	37.3%
午後 7 時から午後 9 時の間	248	15.8%
午後 9 時から午後 11 時の間	148	9.4%
午後 11 時から午前 1 時の間	43	2.7%
午前 1 時以降	5	0.3%
無回答	24	1.5%
合計	1567	100.0%

質問 22 授業期間中、授業（遠隔授業を含む）・学生実験等に関する課題・予習・復習に、1 週間でどれくらいの時間を充てていますか。

表 22 一週間の授業以外の学習時間

	回答数	割合
1 時間未満	225	14.4%
1 時間以上 5 時間未満	580	37.0%
5 時間以上 10 時間未満	343	21.9%
10 時間以上 15 時間未満	172	11.0%
15 時間以上 20 時間未満	80	5.1%
20 時間以上	142	9.1%
無回答	25	1.6%
合計	1567	100.0%

1 週間の授業以外の学習時間について尋ねた結果を表 22 に示す。前回の調査でも今回の調査でも最も多かった回答は「1 時間以上 5 時間未満」であった。しかし、前回の調査では 45.2%だったのが今回の調査では 37.0%と低下した。一方で、「1 時間未満」と回答した学生は前回の調査とほぼ変わらないが、5 時間以上のすべての項目において前回の調査よりも増加していた。これは、前回の調査時における授業形態の多くが遠隔授業だったのに対し、今回の調査時には多くの授業が

対面方式に戻ったことから、遠隔授業時よりも予習復習の必要性を感じた学生が増えたからではないかと考えられる。

質問 23 授業期間中、学内外のクラブやサークル活動には、1 週間でどれくらいの時間を充てていますか。

表 23 一週間のサークル等の活動時間

	回答数	割合
30 時間以上	17	1.1%
20 時間から 29 時間	21	1.3%
10 時間から 19 時間	43	2.7%
1 時間から 9 時間	231	14.7%
クラブ等に所属しているが、活動実績はほとんどない	191	12.2%
クラブ等に所属していない	1034	66.0%
無回答	30	1.9%
合計	1567	100.0%

1 週間のサークル等の活動時間について尋ねた結果を表 23 に示す。最も多かったのは「クラブ等に所属していない」(66.0%) であった。前回の調査ではクラブ等に所属していないと回答した者が 62.7%であり、前回よりも増加した。また、「クラブ等に所属しているが、活動実績はほとんどない」と回答した者も 12.2%あり、合計すると 80%弱の学生がサークルやクラブでの活動を行っていないことが明らかとなった。本アンケート実施時期は現 3 年次生以下の学年がサークル活動の主体となっていることが考えられるが、彼らが入学したころは新型コロナウイルス感染予防としてサークル活動・クラブ活動の自粛要請真ただ中であり、多くのサークルやクラブが活動停止を余儀なくされていた。その上、サークルへの勧誘自体がコロナ禍前よりもできなかったこともあり、サークルやクラブへ加入するタイミングがなく、現在に至るまでこのような結果になったと考えられる。

質問 24 授業期間中、スポーツや運動に、1 週間でどれくらいの時間を充てていますか。

「一週間でスポーツ等に費やす時間」について

尋ねた結果を表 24 に示す。一番多かった回答は「ほとんど運動はしない」で 50.8%であり、1 時間未満と合わせると 70%程度となった。前回の調査（69.2%）でも同様の結果だった。前回の調査時より外出規制などは緩和されているが、今もなお半数以上の学生がほとんど体を動かしていないことが明らかとなった。

表 24 一週間でスポーツ等に費やす時間

	回答数	割合
ほとんど運動はしない	796	50.8%
1 時間未満	320	20.4%
1 時間以上 2 時間未満	187	11.9%
2 時間以上 3 時間未満	91	5.8%
3 時間以上	146	9.3%
無回答	27	1.7%
合計	1567	100.0%

質問 25 Facebook や Line などの SNS（ソーシャル・ネットワークサービス）やインターネットの利用に、1 日でどれくらいの時間を充てていますか。

Facebook や Line などの SNS やインターネットの一日の利用時間について尋ねた結果を表 25 に示す。最も多かった回答は 34.3%の「3 時間以上」であり、2 時間以上見ている人と合わせると 52%と半数を超えた。質問 24 のスポーツ等に費やす時間が「ほとんど運動しない」と反比例するように SNS やインターネットの利用時間が多い傾向にあることが分かった。

表 25 一日の SNS やインターネットの利用時間

	回答数	割合
使用していない	41	2.6%
1 時間未満	279	17.8%
1 時間以上 2 時間未満	388	24.8%
2 時間以上 3 時間未満	291	18.6%
3 時間以上	537	34.3%
無回答	31	2.0%
合計	1567	100.0%

質問 26 アルバイトに従事している時間は何時間ですか。

アルバイト従事時間について尋ねた結果を表 26-1 に示す。なお、「平日」および「土・日・祝」の片方またはどちらにも回答しない場合があるので、それぞれの和は 100%より小さくなっている。

まず、平日にアルバイトに従事している者の中で最も多かった回答は「10 時間以上～20 時間未満」であり 25.1%であった。一日あたりに換算すると 2 時間以上～4 時間未満のアルバイトに従事している学生が多いと考えられる。次いで多かった回答は「10 時間未満」であり 18.1%、それに続いて「していない」が 9.4%であった。よって平日は 52%程度が平日にアルバイトをしていないまたは一日当たり 4 時間未満のアルバイトであった。一方、前回のアンケートでは最も多かった回答が「平日にアルバイトをしていない」で 41.1%だったことから、前回の調査時よりも平日にアルバイトに従事している学生が増えたことが明らかとなった。土・日・祝日では、「していない」が 32.6%であり、前回の 15.1%よりも増加していた。続いて「5～10 時間」が 18.1%で前回と同様であった。また、「10～15 時間」が 12.8%、「15 時間以上」が 6.1%でどちらも前回よりもやや増加していた。全体的に、土・日・祝日のアルバイトはしていないか、している人は 5 時間以上行っており、アルバイト時間が増加する傾向が見られた。

表 26-1 アルバイトに従事する時間 その 1

		回答数	割合
平日	1. していない	148	9.4%
	2. 10 時間未満	283	18.1%
	3. 10 時間～20 時間未満	393	25.1%
	4. 20 時間～30 時間未満	137	8.7%
	5. 30 時間以上	41	2.6%
土・日・祝	6. していない	511	32.6%
	7. 0～5 時間未満	104	6.6%
	8. 5 時間～10 時間未満	284	18.1%
	9. 10 時間～15 時間未満	201	12.8%
	10. 15 時間以上	95	6.1%

表 26-2 アルバイト従事時間 その2

パターン (数字は表 26-1 の項目内の数字に該当)	回答数	割合
10	401	25.6%
3	158	10.1%
3、8	91	5.8%
5、10	83	5.3%
2	77	4.9%
8	71	4.5%
4、8	69	4.4%
4	64	4.1%
4、7	50	3.2%
3、7	49	3.1%
7	48	3.1%
4、9	37	2.4%
6	31	2.0%
それ以外	308	19.7%
無回答	30	1.9%
合計	1567	100.0%

表 26-2 にアルバイト従事パターン別の結果を示す。「平日」および「土・日・祝」の片方またはどちらにも答えない場合があるので詳細な考察は難しいが、「平日も土・日・祝もしていない (5 および 10 を選択)」と回答した者は 5.3%で前回の調査時 (10.7%) より半分程度に減少していた。土・日・祝に長時間、アルバイトに従事する割合は多い (10 を選択) が、常時アルバイトに従事する学生が減少していることは学業への時間確保にとって良い傾向と思われる。一方、「平日が 10 時間～20 時間未満および土・日・祝は 5 時間～10 時間未満従事している (3、8 を選択)」と回答した者が 5.8%おり、この割合は前回の調査 (6.1%) とほとんど変わらないため、アルバイトの負担感と学業への影響を注視する必要があると思われる。

F. 回答者の健康と安全

本学では、毎年 4 月と 11 月に健康診断を実施している。所見のある学生の割合は多くはないが、一定の割合で存在し、健康指導を実施している。ここでは、それぞれの学生の生活習慣、心身の健康を維持する方法について調査した。

質問 27 あなたの現在の健康状態について教えてください。

表 27 健康状態

	回答数	割合
特に気になることはない	1169	74.6%
気になることはあるが、医師の診断や治療を受けるほどではない	290	18.5%
日常生活に影響する症状があり、医師の診断や治療を受けている	76	4.9%
無回答	32	2.0%
合計	1567	100.0%

各学生の健康に関する自覚症状または疾病の状況について尋ねた結果を表 27 に示す。74.6%の学生が特に問題を感じていないことがわかった。一方、4.9%の学生が「日常生活に影響する症状があり、医師の診断や治療を受けている」と回答しており、前回調査の「治療を受けている」(0.6%) に比べ増加しているため、学生の健康状態に適切に配慮する必要がある。

質問 28 一日の睡眠時間はどれくらいですか。

表 28 一日の睡眠時間

	回答数	割合
9 時間以上	36	2.3%
8 時間くらい	205	13.1%
7 時間くらい	518	33.1%
6 時間くらい	608	38.8%
5 時間未満	171	10.9%
無回答	32	1.9%
合計	1567	100.0%

経済協力開発機構 (OECD) の統計 (Gender Data Portal 2021) によると、日本人の平均睡眠時間は 7 時間 22 分である。質の高い睡眠は生活習慣病や心身症を予防する上で重要であると言われている。学生の睡眠時間について尋ねた結果を表 28 に示す。「5 時間未満」が 10.9%、「6 時間くらい」が 38.8%と回答しており、49.7%の学

生が日本人の平均睡眠時間より少なく、睡眠時間が不足している学生が比較的多くいる可能性がある。

質問 29 飲酒の習慣はありますか。1 週間にお酒を飲む日数を教えてください。

飲酒習慣は健康に影響を与える要因の一つである。また、アルコールへの過度の依存は健康問題だけでなく、社会問題にもなりうる。学生の飲酒習慣（1 週間あたりのお酒を飲む日数）について表 29-1 に全学年を、表 29-2～8 に学年別の結果を示す。

表 29-1 飲酒習慣（全学年）

	回答数	割合
ほぼ毎日飲む	20	1.3%
5 日から 6 日は飲む	20	1.3%
3 日から 4 日は飲む	42	2.7%
1 日から 2 日は飲む	170	10.8%
ほとんど飲まない	617	39.4%
飲まない（飲めない）	670	42.8%
無回答	28	1.8%
合計	1567	100.0%

表 29-1 に示すように 39.4%の学生が「ほとんど飲まない」、42.8%の学生が「飲まない」と回答している一方、5.3%の学生が 1 週間に 3 日以上飲酒をしていると回答した。

表 29-2 飲酒習慣（1 年次）

	回答数	割合
ほぼ毎日飲む	2	0.5%
5 日から 6 日は飲む	1	0.3%
3 日から 4 日は飲む	0	0.0%
1 日から 2 日は飲む	4	1.0%
ほとんど飲まない	32	8.2%
飲まない（飲めない）	348	89.2%
無回答	3	0.8%
合計	390	100.0%

また、表 29-2 に 1 年次生の飲酒習慣を示すが、「ほとんど飲まない」を含めると 10%程度の学生に飲酒経験があると考えられる。この学年の多くは 20 歳未満と考えられることから、20 歳未満の

人は飲酒をしないことを呼びかけることが重要である。また、表 29-3～8 に示すように、学年が上がるに従って飲酒の習慣のある学生が増加する傾向にある。20 歳以上であっても適度の飲酒とすることを呼びかけることも重要である。

表 29-3 飲酒習慣（2 年次）

	回答数	割合
ほぼ毎日飲む	3	0.9%
5 日から 6 日は飲む	6	1.8%
3 日から 4 日は飲む	15	4.5%
1 日から 2 日は飲む	46	13.8%
ほとんど飲まない	123	36.9%
飲まない（飲めない）	137	41.1%
無回答	3	0.9%
合計	333	100.0%

表 29-4 飲酒習慣（3 年次）

	回答数	割合
ほぼ毎日飲む	5	1.4%
5 日から 6 日は飲む	5	1.4%
3 日から 4 日は飲む	13	3.5%
1 日から 2 日は飲む	64	17.3%
ほとんど飲まない	200	54.2%
飲まない（飲めない）	73	19.8%
無回答	9	2.4%
合計	369	100.0%

表 29-5 飲酒習慣（4 年次）

	回答数	割合
ほぼ毎日飲む	8	2.2%
5 日から 6 日は飲む	8	2.2%
3 日から 4 日は飲む	13	3.6%
1 日から 2 日は飲む	40	11.2%
ほとんど飲まない	198	55.3%
飲まない（飲めない）	85	23.7%
無回答	6	1.7%
合計	358	100.0%

表 29-6 飲酒習慣（5 年次）

	回答数	割合
ほぼ毎日飲む	1	2.2%
5 日から 6 日は飲む	0	0.0%
3 日から 4 日は飲む	1	2.2%
1 日から 2 日は飲む	9	19.6%
ほとんど飲まない	24	52.2%
飲まない（飲めない）	9	19.6%
無回答	2	4.3%
合計	46	100.0%

表 29-7 飲酒習慣（6 年次）

	回答数	割合
ほぼ毎日飲む	1	1.9%
5 日から 6 日は飲む	0	0.0%
3 日から 4 日は飲む	0	0.0%
1 日から 2 日は飲む	3	5.6%
ほとんど飲まない	32	59.3%
飲まない（飲めない）	13	24.1%
無回答	5	9.3%
合計	54	100.0%

表 29-8 飲酒習慣（大学院生）

	回答数	割合
ほぼ毎日飲む	0	0.0%
5 日から 6 日は飲む	0	0.0%
3 日から 4 日は飲む	0	0.0%
1 日から 2 日は飲む	4	23.5%
ほとんど飲まない	8	47.1%
飲まない（飲めない）	5	29.4%
無回答	0	0.0%
合計	17	100.0%

質問 30 地震、水害等の大規模災害が頻発しています。地震等の大規模災害が発生したときの家族との連絡方法を決めていますか。

阪神淡路大震災（1995 年）、東日本大震災（2011 年）、熊本地震（2016 年）、そして 2018 年 7 月の西日本豪雨など、大規模災害が多発している。

そして本学にも影響があると思われる南海地震、東南海地震ではマグニチュード 9 の地震発生が予想されている。このような状況を踏まえ、学生の危機意識を調査するために大規模災害発生時の家族との連絡方法について尋ねた結果を表 30 に示す。「連絡方法を決めている」学生の割合は前回の調査（21.7%）よりも 10 ポイント近く増加し 30.2%となったが依然として低い結果であった。危機意識を高めるために、実質的な安全教育を推進する必要がある。

表 30 家族との連絡方法

	回答数	割合
連絡方法を決めている	473	30.2%
連絡方法を決めておく必要があると思うが、まだ決めていない	730	46.6%
対応を相談したことがない	269	17.2%
連絡方法を決めておく必要はないと考えている	65	4.1%
無回答	30	1.9%
合計	1567	100.0%

質問 31 学生生活の中で、悩みはありますか。該当する事項があれば差支えがなければ教えてください。

学生の悩みについて尋ねた結果を表 31 に示す（表 31-1: 複数回答の累計、表 31-2: パターン別）。この質問では、9 つの選択肢から複数の手段を選んでよいので、割合を計算する際の分母は回答総数の 1567 である。

表 31-1 悩み(複数回答の累計)

	回答数	割合
1.学修のこと	464	29.6%
2.サークル活動のこと	87	5.6%
3.将来の進路のこと	696	44.4%
4.家庭のこと	80	5.1%
5.経済的なこと	268	17.1%
6.自分自身の健康のこと	162	10.3%
7.人間関係のこと	261	16.7%
8.その他のこと	78	5.0%
9.悩みは無い	504	32.2%

表 31-2 悩み(パターン別)

パターン (数字は表 31-1 の数字に該当)	回答数	割合
9	489	31.2%
3	247	15.8%
1	105	6.7%
1、3	87	5.6%
5	40	2.6%
3、5	37	2.4%
1、3、7	37	2.4%
1、3、5	35	2.2%
3、7	34	2.2%
それ以外	423	27.0%
無回答	33	2.1%
合計	1567	100.0%

表 31-1 に示すように、32.2%の学生が「悩みは無い」と回答したが、そのほかの学生は、将来の進路や学修など、多様な問題を抱えていることが分かった。また、表 31-2 のパターン別の結果から、1 人の学生が複数の悩みを抱えている場合があることも明らかになった。

質問 32 身体や心の悩みが生じた場合には、どのように対処しますか。

身体や心の健康に関する問題への対処方法について尋ねた結果を表 32 に示す（複数回答可、表 32-1: 複数回答の累計、表 32-2: パターン別）。

表 32-1 悩みの対処法(複数回答の累計)

	回答数	割合
1. 保健管理センターのスタッフに相談する	64	4.1%
2. 教員に相談する	124	7.9%
3. 友人に相談する	396	25.3%
4. 家族に相談する	803	51.2%
5. 医療機関に相談する	281	17.9%
6. 自分で考える	777	49.6%
7. その他	60	3.8%
8. わからない	129	8.2%

表 32-2 悩みの対処法(パターン別)

パターン (数字は表 32-1 の数字に該当)	回答数	割合
6	237	15.1%
3、4、6	166	10.6%
4	153	9.8%
3、4	133	8.5%
3	116	7.4%
8	102	6.5%
3、6	89	5.7%
4、6	83	5.3%
4、5	58	3.7%
それ以外	399	25.5%
無回答	31	2.0%
合計	1567	100.0%

この質問では、8 つの選択肢から複数の手段を選んでよいので、割合を計算する際の分母は回答総数の 1567 である。

表 32-1 に示すように、「友人に相談する」学生が 25.3%、「家族に相談する」学生が 51.2%であり、親しい人に相談する学生が多かった。なお、前回調査では、「友人に相談する」学生が 46.2%であったが、今回は 25.3%と 20 ポイント以上低下した。新型コロナウイルス感染の影響で友人関係に変化が生じていることを示しているのかもしれない。また、表 32-2 のパターン別の結果を見てみると、友人と家族の両方に相談すると回答した学生は 19.1%である一方、「自分で考える」だけを選んだ学生も 15.1%いた。悩みが生じた場合は、1 人で抱え込まないように相談窓口に誘うことも重要である。

G. 回答者の人間関係

良好な人間関係は充実した学生生活を送る上で重要である。ここでは学生の人間関係について調査した。

質問 33 大学での友人について教えてください。

友人との関係について尋ねた結果を表 33 に示す（複数回答可、表 33-1: 複数回答の累計；表 33-

2: パターン別)。この質問では、6つの選択肢から複数の手段を選んでよいので、割合を計算する際の分母は回答総数の1567である。

表 33-1 大学での友人関係(複数回答の累計)

	回答数	割合
1. 何でも話せる友人がいる	761	48.6%
2. 趣味や話題を共有できる友人がいる	990	63.2%
3. 試験や学習などで困ったときに、相談できる友人がいる	895	57.1%
4. 大学の中で話をする人は少ない	210	13.4%
5. 人付き合いが苦手で大学の中でほとんど誰とも話さない	89	5.7%
6. ひとりでいることが好きなので、友人は必要ない	68	4.3%

表 33-2 大学での友人関係(パターン別)

パターン (数字は表 32-1 の数字に該当)	回答数	割合
1、2、3	431	27.5%
2、3	273	17.4%
1	198	12.6%
2	150	9.6%
4	90	5.7%
3	81	5.2%
1、2	63	4.0%
1、3	38	2.4%
5	37	2.4%
6	31	2.0%
それ以外	143	9.1%
無回答	32	2.0%
合計	1567	100.0%

表 33-1 に示すように、48.6%の学生が「何でも話せる友人がいる」、63.2%が「趣味や話題を共有できる友人がいる」、そして、57.1%が「試験や学習などで困ったときに相談できる友人がいる」と回答しており、友人関係を大切にしている学生が多いことが分かった。これらについては前回の調査とほぼ同じ傾向である。なお、これに関連して「ひとりでいることが好きなので、友人は

必要ない」も前回調査(13.6%)に比べて大きく減少した。一方、前回の調査と同様に、「大学の中で話をする人が少ない」学生や「人付き合いが苦手で大学の中でほとんど誰とも話さない学生」が2割近くいる実態も分かった。

質問 34 あなたの本学教員に対する印象について教えてください。

表 34-1 本学教員の印象(複数回答の累計)

	回答数	割合
1. 尊敬できる教員がいる	439	28.0%
2. 理解してくれる教員がいる	365	23.3%
3. 相談できる教員がいる	734	46.8%
4. 教員との関係で困っていることがある	49	3.1%
5. 教員とコミュニケーションの取り方がわからない	184	11.7%
6. 教員との関わりは特にない	381	24.3%

本学の教員に対する印象を尋ねた結果を表 34 に示す(複数回答可、表 34-1: 複数回答の累計、表 34-2: パターン別)。この質問では、6つの選択肢から複数の手段を選んでよいので、割合を計算する際の分母は回答総数の1567である。

表 34-2 本学教員の印象(パターン別)

パターン (数字は表 32-1 の数字に該当)	回答数	割合
3	390	24.9%
6	339	21.6%
1	157	10.0%
1、2、3	138	8.8%
5	107	6.8%
2	87	5.6%
2、3	85	5.4%
1、3	75	4.8%
1、2	30	1.9%
5、6	25	1.6%
4	18	1.1%
それ以外	81	5.2%
無回答	35	2.2%
合計	1567	100.0%

表 34-1 に示すように、28.0%の学生が「尊敬できる教員がいる」、23.3%が「理解してくれる教員がいる」、そして、46.8%の「困ったときに相談できる教員がいる」と回答している。一方、11.7%の学生が「教員とのコミュニケーションの取り方が分からない」と回答しており、教員から積極的にコミュニケーションをとることも大切であると思われる。

H. 新型コロナウイルスの影響

前回のアンケートから設けた Covid-19 に関する質問である。2 年間経過した現在に至ってようやく収まる兆候が現れているが、その影響は続いているので、引き続き調査を行った。そして今回は、前回の質問項目に加えて、大学のサポートに関しても質問した。また、この項目の質問の回答の「そのほか」にはすべて自由記述欄を設けた。それらの全文は付録を参照していただきたい。

質問 35 前期(4月から9月)の間、新型コロナウイルス感染症に関連して、精神的な不安を感じましたか？

質問 36 後期が始まって以降現在までに新型コロナウイルス感染症に関連して、精神的な不安を感じたことがありますか？

質問 35 と質問 36 については、合わせて分析を行う。新型コロナウイルス感染症に関連して、精神的な不安を感じたかを尋ねた結果について、前期の間を表 35 に、後期の間を表 36 に示す。

表 35 精神的な不安(前期)

	回答数	割合
感じた	326	20.8%
感じなかった	872	55.6%
どちらともいえない	328	20.9%
そのほか	9	0.6%
無回答	32	2.0%
合計	1567	100.0%

表 36 精神的な不安(後期)

	回答数	割合
ある	253	16.1%
ない	969	61.8%
どちらともいえない	303	19.3%
そのほか	10	0.6%
無回答	32	2.0%
合計	1567	100.0%

前回調査よりも不安を「感じた」割合は、前後期とも半減した（前回調査：前期 44.1%、後期 38.0%）。また、今回の調査では、前期よりも後期で不安を「感じた」割合が若干減少していた。徐々に精神的な不安は緩和されてきていると判断できる。

質問 37 現在、新型コロナウイルス感染症に関連して、健康面で不安がありますか？

表 37 精神的な不安(現在)

	回答数	割合
ある	113	7.2%
ない	1224	78.1%
どちらともいえない	195	12.4%
そのほか	5	0.3%
無回答	30	1.9%
合計	1567	100.0%

回答時の精神的な不安について尋ねた結果を表 37 示す。

表 36 と比較しても精神的な不安が「ある」と答えた学生は半分以下となり、また、8 割近くが不安は「ない」と回答しており、社会的な新型コロナウイルス感染症の状況や対応の変化が不安解消につながっているものと思われる。

質問 38 現在、新型コロナウイルス感染症に関連して、経済状況に影響はありますか？

新型コロナウイルス感染症に関連して、経済状況への影響について尋ねた結果を表 38 に示す。

「悪い影響がある」という回答が前回の調査（3 割強）よりは減っているものの、2 割強を占めて

いた。今後の経済の動向によっては、何らかの支援を実施することが望ましいと考えられる。

表 38 経済状況の影響(現在)

	回答数	割合
良い影響がある	38	2.4%
悪い影響がある	344	22.0%
どちらともいえない	1134	72.4%
そのほか	20	1.3%
無回答	31	2.0%
合計	1567	100.0%

質問 39 新型コロナウイルス感染症に関連して、家族や友達などの人間関係に影響はありましたか？

表 39 人間関係への影響(現在)

	回答数	割合
良い影響がある	33	2.1%
悪い影響がある	419	26.7%
どちらともいえない	1056	67.4%
そのほか	26	1.7%
無回答	33	2.1%
合計	1567	100.0%

新型コロナウイルス感染症に関連して、家族や友達などの人間関係への影響について尋ねた結果を表 39 に示す。

「悪い影響がある」という回答が前回の調査（2 割弱）よりも増加した。質問 32 の項で示されたように悩みを友人に相談する割合が減少するなど、長期に渡る新型コロナウイルス感染症への対応が、人間関係に悪い影響を及ぼしていると考えられる。必要に応じて、保健管理センターとも連携して支援する必要がある。

質問 40 新型コロナウイルス感染症に関する大学のサポートについての意見をお聞かせください。

新型コロナウイルス感染症に関する大学のサポートについて尋ねた結果を表 40 に示す。

「よい」が 25%弱、「よくない」が 10%弱であり、「よい」という回答の方が上回った。一方で、「どちらともいえない」が 3 分の 2 近くあり、サ

ポート体制についての評価はこの結果のみでは困難である。今後の新型コロナウイルス感染症の動向に応じ、また、今後、同様の感染症拡大を想定し、より充実したサポート体制を検討する必要があると思われる。

表 40 大学のサポート

	回答数	割合
よい	374	23.9%
よくない	152	9.7%
どちらともいえない	1001	63.9%
そのほか	40	2.6%
無回答	0	0.0%
合計	1567	100.0%

I. 大学への要望

この項では、本学の施設・設備に対する学生の要望を知るために、改善を必要とする事項を施設・設備別に尋ねた。また、それに関する具体的な回答を自由記述で求めた。さらに大学の諸行事の改善について、同様に具体的な意見を求めた。

質問 41 福山大学の施設や設備等について、改善が必要と感じることを教えてください。

質問 42 項目 41 の回答で挙げていただいた施設や設備等の改善について、それを具体的に教えてください。

福山大学の施設や設備等について、改善が必要と感じる点について尋ねた結果を表 41 に示す（複数回答可、表 41-1: 複数回答の累計、表 41-2: パターン別）。この質問では、11 つの選択肢から複数の手段を選んでよいので、割合を計算する際の分母は回答総数の 1567 である。

75%近い割合で「スクールバスの運行」の改善に関する要望があった。具体的な内容は、質問 42 の回答に相当する付録の自由記述欄を参照してもらいたい、学生の満足度を高めるために何らかの対策が必要であることは間違いない。そのほかの項目についても、関係部署と連携して、可能な限り改善することが望まれる。要望文を記した回答は 495 件であった。

表 41-1 大学の施設・設備の改善への提言
(複数回答の累計)

	回答数	割合
1. スクールバスの運行について	1154	73.6%
2. 教室の設備（音響黒板等）について	302	19.3%
3. 食堂や喫茶の設備や利用時間について	152	9.7%
4. 食堂や喫茶のメニューや価格について	185	11.8%
5. 売店やコンビニの品揃えや利用時間について	204	13.0%
6. 図書館の蔵書について	36	2.3%
7. 図書館の利用時間や利用方法について	55	3.5%
8. スポーツ関係の施設・設備について	109	7.0%
9. 休憩場所について	210	13.4%
10. その他	141	9.0%
11. 改善を要することは思い浮かばない	632	40.3%

表 41-2 大学の施設・設備の改善への提言
(パターン別)

パターン（数字は表 41-1 の数字に該当）	回答数	割合
11	612	39.1%
1	172	11.0%
2	89	5.7%
10	60	3.8%
8	32	2.0%
5	27	1.7%
9	27	1.7%
1、2	26	1.7%
4	19	1.2%
1、4	18	1.1%
それ以外	439	28.0%
無回答	46	2.9%
合計	1567	100.0%

なお、表 41-2 に示すように「改善を要することとは思いつかばない」という単独の回答も 40% 近くあった。具体的な施策を考える際に、性急な判断は避ける必要があるとも考えられる。

質問 43 福山大学の諸行事等で、さらに工夫を加えればもっと素晴らしい行事になると思うことがあれば教えてください。

質問 44 項目 4 3 の回答で挙げていただいた行事の中から一つを選び、どのような工夫があるのか具体的に教えてください。

表 42-1 福山大学の諸行事等への改善提案
(複数回答の累計)

	回答数	割合
1. 入学式	51	3.3%
2. 新入生合宿オリエンテーション	127	8.1%
3. 学長杯争奪競技大会	98	6.3%
4. 三蔵祭（大学祭）	269	17.2%
5. 学位授与式（在学生の立場での意見）	33	2.1%
6. 入学試験	29	1.9%
7. その他の行事	30	1.9%
8. 特にない	1118	71.3%

表 42-2 福山大学の諸行事等への改善提案
(パターン別)

パターン	回答数	割合
8	1100	70.2%
4	147	9.4%
2	48	3.1%
3、4	30	1.9%
2、4	21	1.3%
3	20	1.3%
2、3、4	12	0.8%
それ以外	116	7.4%
無回答	73	4.7%
合計	1567	100.0%

福山大学の諸行事等で、さらに工夫を加えればもっと素晴らしい行事になると思う点について尋ねた結果を表 43 に示す（複数回答可、表 43-1: 複数回答の累計、表 43-2: パターン別）。この質問では、8 つの選択肢から複数の手段を選んでよいので、割合を計算する際の分母は回答総数の 1567 である。

表 41-1 および 41-2 に示すように「特にない」という回答が 70%強を占める結果であった。一方で、「三蔵歳（大学祭）」の改善に関する要望が 20%近くあった。新型コロナウイルス感染症の状況にもよるが、来年度以降、このアンケートで提案された事柄（付録 質問 44 についての自由記述 27 件）を学友会と情報共有していきたい。

なお、質問 44 の回答（付録）には三蔵祭への改善提案以外のものも含め 146 件の具体的な意見があった。これらについても今後の検討課題としたい。

6. 集計結果について

今回の調査では、上述のように前回の調査に比べて 10 ポイント近い 40%以上の回答を回収することができたが、一方で、60%近い学生の回答が得られなかったことは残念であった。しかしながら、前回の調査との比較から、新型コロナウイルス感染症の学生への影響が収まりつつあると感じられることがわかる。たとえば、分類項目 H の 5 個の質問の他に、質問 7「学生生活は充実しているか」に対する回答で、「あまり、または全く充実していない」という回答が前回は前々回の 14.3%から 23.9%に 10 ポイント近く増加していたが、今回は 14.2%であり、前々回の値にほぼ戻っている。

一方、質問 22「授業以外の学習時間」は「1 時間以上」の合計については前々回の 69.2%から前回 86.9%と増加し、今回も 85.6%であり、さらには「5 時間以上」が前回の 39.2%から 48.6%と増加した。コロナ禍で培われた学習習慣が継続していることを示していると思われる。また、質問 8「大学行事への参加」においては前回、「参加したことがない」が 20.5% から 44.0% と倍以上に

増えていたのが、今回は 34.7% とやや減少した。拙速な判断はできないが、コロナ禍で失われた教員と学生あるいは学生間の繋がりを取り戻す動きが起きている可能性がある。このように、今回も学生サポートのための情報が多く得られたと考えられる。

前回の報告書で提起した「複数選択可能な質問の形式」については、セレッソのアンケート機能では仕様上、まず「YES」か「NO」のどちらかを選択し、それぞれの場合で別々の項目を選択するような形式にはできないので、改善できなかった。そのため今回も少数ではあるが、例えば質問 9「クラブ活動」で、「大学内外を問わず、クラブ等には参加していない」を「福山大学のスポーツ系のクラブ等に参加している」とともに選択した回答があった。今後の検討課題である。

アンケート項目ではないが、Cerezo では、回答に要した時間を確認できるので、これについても解析を行なった。その結果、表 43 に示すように、10 分までが全体の 2/3 程度、10 分から 20 分までと合わせると、92.1%であった。また、平均値は 12 分 37 秒であったが、1 時間以上が 34 件あり、最大値が 10 時間 6 分 16 秒であったので、中央値は 7 分 55 秒であった。1 質問あたりでは、中央値は 11 秒であることと、全体の所要時間が概ね 10 分から 20 分の間におさまっていることから、アンケート対象者が回答する際の時間面での負担は今回もそれほど大きくはなかったと思われる。

表 43 回答に要した時間の分布

10 分まで	1036	66.1%
10 分から 20 分	408	26.0%
20 分から 30 分	60	3.8%
30 分から 40 分	19	1.2%
40 分から 50 分	8	0.5%
50 分から 60 分	2	0.1%
1 時間以上	34	2.2%
合計	1567	100.0%

なお今回は回答期限を延長したので、回答未提出者の中に、「入力データあり」の件数は前回の約

400 から 114 に減少した。結果として回答率が 4 割を超えたのであるが、次回以降もより回答率を上げるための方策を講じることが求められる。

おわりに

平成 26 年度から始まったアンケート調査は、今回が第 5 回で、学生生活全般に関する調査は 3 回目であった。回答率は前々回の 1/4 弱、前回の 1/3 弱から 4 割強に上がった。これは学生委員会委員を中心に多くの教職員が本調査に協力くださった結果であり感謝に堪えない。一方で、当然のこととして、さらに多くの学生に回答してもらうほうが良い。また、前節「集計結果について」で述べたように、複数選択のミスを防ぐような質問形式にするとといった課題なども依然として残っている。しかしながら、「学生生活アンケート」そのものは、継続して実施していくことによって、学生生活の充実度や大学に求められる改善点を明らかにすることに役立つ重要な取り組みであることは間違いない。本調査を次回以降も発展的に実施し、貴重な情報を提供していくことを望む次第である。

最後に、Cerezo の回答データを統計処理し、本報告書を分担して執筆いただいた学生委員会研究部門小委員会のメンバーの皆様には心からの謝意を表したい。

学生委員会 研究部門小委員会

委 員 我如古 菜月(生命工学部)

委 員 新谷 敏朗(工学部)

委 員 Bisset Ian James(経済学部)

委 員 丸山 友美(人間文化学部)

委 員 小林 正明(工学部)

委 員 坂根 洋(薬学部)

学生委員会 委員長

鶴崎 健一